

Small Talk台本（第3時・第4時のはじめ5分）

進め方（外国語活動）：帯活動として単元の後半に2回。3年は先生の話聞くことが中心で、ペアは2回目だけ30秒×2回（相手を替えて）。1回目のペアのあとに中間指導（下の「ことばの補給」）を挟む。なりきりではなく先生の本当のカードと、おくりたい人で話す。

話題1 先生がもらったカード（第3時）

板書：What shape? What color? [先生がもらったカード（か、その写真）・かたちカード]

T Hello, everyone! Look! This is my treasure. A card from my friend.

みんな、こんにちは。見て、先生のたからもの。友だちからもらったカード。

T My friend said, This is for you. I was so happy!

友だちが This is for you. と言ってわたしてくれた。うれしかった！（胸に手）

T Look at the card. What shape is this?

カードを見て。これはなんの形？（大きな星を指さす）

S Star! A yellow star!

ほし！（形の名前1つで十分。色も言えたら、ほめて全員でくり返す）

T Yes! A big yellow star. And red hearts. I love this card!

そう！大きな黄色い星。赤いハートも。このカード、大好き！

つまった子への助け舟：名前が出ない子には、カード2枚で Star? Heart? と聞き、指さした方を先生が言い直す。

話題2 先生がおくりたいカード（第4時）

板書：What do you want? ○○, please. [カードの台紙・赤いハートの色紙2まい]

T I want to make a card for my mother. Her birthday is next week.

先生はお母さんにカードを作りたい。来週がたんじょう日なんです。（台紙を見せて）

T She likes red. Please ask me. What do you want?

お母さんは赤がすき。みんなはお店の人。先生に聞いてね。（板書を指さす）

S What do you want?

なにがほしい？（全員で。お店の人のことば）

T Two red hearts, please. Thank you!

赤いハートを2つ、おねがい。（前の子から受け取って）ありがとう！

T Now, in pairs. What do you want? A star, please.

ペアで。聞く→ほしい形を please でこたえる（30秒×2回・先に見本）

つまった子への助け舟：please が出ない子は、かたちカードを指さして please だけでよい。



中間指導 1回目のあとに全体で（ことばの補給）

第4時のペアの1回目のあとに全体で：「お店の人は、わたすときなんて言う？」と聞き、先生が赤いハートを手わたすまねで Here you are. →全員で2回言う（かたちやさんの店員のことば）。ふやすのはこの1つだけ。→ 相手を替えて2回目は、聞いた側が Here you are. と手わたすまねで返す→たのんだ側は Thank you! おわりに「先生のお母さんのカード、どんな形にしよう？」とたずね、出た形を1つだけ台紙にのせて見せる（このあとのかたちやさん②へ）。

対話を続けることば 黒板横に掲示しておく

はじめる	Hello!
くり返す	Two hearts? OK!（あいての言葉をくり返す）
ひとこと感想	Nice! / Wow!
たしかめる	Pardon?
おねがいする	A star, please.
わたす・もらう	Here you are. → Thank you!
おわる	Thank you. / See you!

先生へ

- ・3年の Small Talk も先生の話聞くのが中心。第3時はペアにしない（形と色の名前を当てる＝このあと What do you want? と出会う前に、ことばを耳に）。第4時のペアも30秒×2回で十分
- ・カードとおくりたい人は、先生の本当のものに差し替えてよい（Word版で書き換えられる）。もらったカードが無ければ写真か、前の晩に作った1枚でよい。This is for you. は第5時の主役＝ここでは先生がもらった話として1回聞かせるだけで、子どもには言わせない
- ・第4時は先生がお客、子ども全員がお店の人＝What do you want? を言うのは子ども（第3時は先生が言ったことば）。くじで決めたわたす相手の名前は、ペアでも言わない（言うのは形と色だけ）。音声は先生と子どもの声で、話題ごとに1本ずつ